

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人神戸大学

1 全体評価

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」への進化を目指している。第3期中期目標期間においては、①先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、②文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、③海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、④これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、神戸グローバルチャレンジプログラムによる実践型グローバル人材育成を実施するとともに、文理融合型の独立大学院を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教養教育において、学生が卒業時に身に付けるべき共通の能力を明示した「神戸スタンダード」に基づいた教養教育の改革として、主に学士課程の1・2年次生が学修していた教養原論の見直しを行い、新たに自らの専門分野と異なる学問分野の基本的なものの考え方を学ぶ「基礎教養科目」、及び多文化理解や複数の学問分野にまたがるグローバル・イシューについて学ぶ「総合教養科目」を開講している。（ユニット「グローバル人材育成に向けた国際通用力の強化」に関する取組）
- 先端研究の戦略的な重点化及びプロジェクトマネジメント機能強化を目的として、それぞれの分野で個別に活動してきた自然科学系先端融合研究環、社会科学系教育研究府及び統合研究拠点を統合改組し、新たに「先端融合研究環」を設置している。同研究環では、「文理融合による『こころの生涯健康学』研究の創成」、「革新的予防・診断・治療法開発に向けたシグナル伝達医学研究」等、新たな学術領域を開拓することを目的としたプロジェクト10件を選定し重点支援を実施している。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 新たな教員組織・人事システムの構築

重点分野に人的資源を戦略的に配分し、新たな学術領域を持続的に創出できる仕組みを構築するため、「神戸大学ビジョンを支える新たな教員組織・人事システム」を策定し、同システムに基づき、教員組織を教育研究組織から分離し、すべての常勤教員を15学域及び3基盤域に配置している。あわせて、教員の人事に関する事項の審議を学長の直下に置かれる教員人事委員会へ移管することで、大学の戦略に基づく全学の視点からの教員配置・採用等を実施している。

○ 文理融合型独立大学院の設置

大学がフラッグシップ研究と位置付ける重点四分野(バイオプロダクション、先端膜工学、先端IT、先端医療学)と事業創造に焦点を当てたアントレプレナーシップとの融合による文理融合型の独立大学院として「科学技術イノベーション研究科」(大学院修士課程)を設置している。文理融合・分野融合を図るため、設置に当たっては学長裁量枠定員(11ポスト)の重点配分によりアントレプレナーシップを専門とする教員や実務経験を有する教員を採用するとともに、社会科学系や自然科学系の研究科から定員を確保(8ポスト)している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 次世代医療における企業との連携等による外部資金比率（寄附金）の上昇

神戸医療産業都市との連携強化と診療・研究・教育の新たな拠点となる「医学部附属国際がん医療・研究センター」の設置にあたり、地元神戸への貢献と今後の次世代医療における治験の推進等で連携関係にあったシスメックス株式会社の賛同により多額の寄附を受けたことなどにより、平成28年度における寄附金収入は40億8,023万円（対前年度比20億6,205万円増）となっており、寄附金に係る外部資金比率は約5.5%（対前年度比約2.7ポイント上昇）となっている。

○ URAの積極的な支援等による外部資金比率（受託研究）の上昇

リサーチ・アドミニストレーター（URA）を中心とした研究提案書の添削やヒアリング練習の企画等の取組を通じて、大学のビジョンに掲げる先端研究・文理融合研究を重点的に推進した結果、ゲノム解析、感染症、先端計測分析技術、バイオ医薬品等、大型の競争的受託研究が増加しており、平成28年度における受託研究に係る外部資金比率は約4.4%となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ メディアを対象とした研究内容の発信

報道機関からの専門家のコメント依頼に対応するため、神戸大学研究者紹介システムを改修し、メディアを対象としたコメントテーマ・ジャンル検索を可能としており、システムを公開した平成28年10月からの半年間で約10万件のページビュー数となっている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 神戸グローバルチャレンジプログラムによる実践型グローバル人材育成

平成28年度から2学期クォーター制を導入するとともに、同制度導入により設定が可能となったギャップタームを活用し、課題発見・解決能力を有する実践型グローバル人材を育成する「神戸グローバルチャレンジプログラム」を開始している。本プログラムは、1・2年次生の1つのクォーターや長期休暇を「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学修活動を行うもので、平成28年度は7学部等でフィールドワークやインターンシップコースなどの14コースを実施し、75名の学生が海外での活動に参加している。

○ 法曹等を対象とした高度専門人材養成プログラムの実施

高度な専門性という付加価値を身に付け、国内のみならず国際的な競争力を得たいと意欲を燃やす若手・中堅の実務家に「博士(法学)」の学位を授与することを目的として、法曹等向けに特化した新しい博士課程後期課程プログラムであるTLP(トップローヤーズ・プログラム)を開設しており、租税法、競争法、知的財産法、国際商事仲裁の4分野でスタートし、弁護士や企業法務部勤務者等12名が入学している。

○ 世界最高水準の社会システムイノベーション総合的研究拠点の形成に向けた取組

先端的な実証研究により問題を分析し社会問題を解決するため、「社会システムイノベーションセンター」を新設している。センターには、環境・資源システムイノベーション部門、医療・福祉システムイノベーション部門、金融・ITシステムイノベーション部門、市場研究部門、社会制度研究部門、アントレプレナーシップ研究部門の6部門・16の研究テーマを設置し、39の研究プロジェクトを実施しており、学内研究者172名、55の学外(国内)研究機関等と30の学外(国外)研究機関等が参加している。

○ 研究成果の事業化を創業期からサポートする会社の設立

神戸大学発ベンチャー企業の立ち上げのための出資や、創業期における支援を行うため、「株式会社科学技術アントレプレナーシップ(STE社)」及び「一般社団法人神戸大学科学技術アントレプレナーシップ基金(STE基金)」を設立している。同社では、科学技術イノベーション研究科と連携し、事業戦略、財務戦略等の総合的なサポートを行っており、神戸大学の研究シーズを事業化するバイオ・ベンチャー2社を設立し出資を行っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 認知症の早期発見・早期介入に向けた共同研究の推進

WHO神戸センターと、認知症の早期発見・早期介入を目指す統合的な「神戸モデル」の構築に向けた3年間の共同研究「認知症の社会負担軽減に向けた神戸プロジェクト」を開始し、神戸市の協力のもと、市民を対象としたスクリーニング調査と認知症啓発・予防プログラムを通じて、認知症の早期発見・早期治療の実現に取り組むなど、急速に増加する認知症に対する研究を推進している。

○ 臨床研究管理体制の整備

臨床研究推進センターにプロジェクトマネージャーや企業での臨床開発経験者等の職員8名を新たに配置するとともに、臨床開発に係りのある各診療科の長等を対象としてシーズヒアリングを実施し、得られたシーズ情報を一元管理するなど、臨床研究管理体制を整備している。

(診療面)

○ 医療安全等に係る重要事項の確実な周知に向けた取組の実施

平成28年7月から、医療安全・感染・薬剤・医療機器の重要周知事項をまとめた「くすのきスクエア」を毎月発行し、各部署の所属職員に周知するとともに、職員がその内容を確認した際に押印又はサインをすることとして、各部署内で周知状況の可視化・情報共有の徹底等、医療安全等に係る重要事項の確実な周知を図っている。

(運営面)

○ 国立大学病院管理会計システム（HOMAS2）活用による効率的な病院運営の実現

国立大学病院管理会計システム（HOMAS2）を活用し、診療科別・疾病別の収支データの蓄積及び分析を行い、診療科ヒアリング等において当該分析結果に基づく改善点を明示するとともに、効率的な病院運営に向けて議論した結果、診療科ヒアリングを実施した平成28年度の第4四半期では、平均在院日数が前年同期と比べて0.5日短縮され、通年においても前年度と比べて0.4日短縮されるなど、効率的な病院運営の実現が図られている。